

手術ありの患者に対する肺血栓塞栓症の 予防対策実施率

肺血栓塞栓症を引き起こすリスクの高い患者様に対する、予防対策の実施割合を示しています。肺血栓塞栓症はエコノミークラス症候群ともいわれ、血栓が肺に詰まることで呼吸困難や胸痛を引き起こし、死に至ることもある疾患です。寝たきりの方や下肢の手術後に発症することが多く、弾性ストッキングの着用など適切な予防対策が必要となります。

【当院の活動】

全身麻酔や脊髄くも膜下麻酔で手術を受ける患者様には、弾性ストッキングや血栓予防装置(フットポンプ)を着用し血栓症の予防策を実施しています。手術後も患者様が歩き始めるまでは血栓予防装置を使用して、肺血栓塞栓症を未然に防げるよう取り組んでいます。

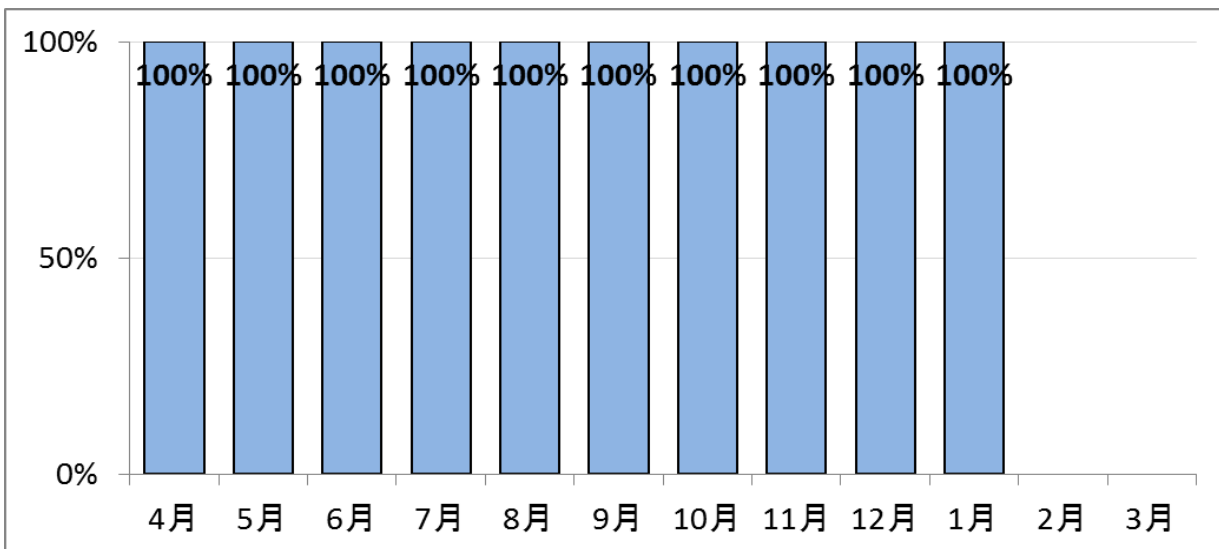
対象病棟： 一般病棟

計算式：
$$\frac{\text{分子) 「肺血栓塞栓症予防管理料」が算定された退院患者数}}{\text{分母) 全身麻酔かつ肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数}}$$

対象期間： 毎月

データ件数:

	2022年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分子	28	19	28	20	20	18	15	17	19	17		
分母	28	19	28	20	20	18	15	17	19	17		
実施率(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		



●年度別比較

データ件数:

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
分子	254	251	280	250	210	255
分母	254	251	280	250	210	255
実施率(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%

